

## 令和2年度 信学会東堀保育園 「園の自己評価」

### 1. 園の教育目標

#### 園の中心テーマ『魅力あふれ、絆が深まる』こども園

・信学会の教育理念「子どもたちの主体的な学びと、他者との関わりで生まれる経験を通じて、生涯にわたり自ら学び続ける人間を育てる」

### 2. 本年度の重点目標

- ・思いやりのある、心を大切にする活動
- ・よく考え、豊かに創造し行動できる活動
- ・生活と関わらせた食育の活動

### 3. 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない

D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	<b>A</b>
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	<b>B</b>
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	<b>A</b>
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	<b>A</b>
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	<b>A</b>
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	<b>A</b>
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	<b>A</b>
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	<b>A</b>
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	<b>B</b>
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	<b>A</b>
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	<b>A</b>
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	<b>B</b>
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	<b>A</b>
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	<b>A</b>
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	<b>B</b>
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	<b>B</b>
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	<b>A</b>

### 4. 本年度の取り組みについて

- ・3年目となった園テーマ「魅力あふれ、絆が深まるこども園」の実現に向けて全教職員が努力した。特に、「わくわくの日」等の取組は、園児や保護者にとって魅力あり楽しい取組として高い評価を受けている。今回の良さは、職員が主体的にコーナーを企画・運営・評価・改善したいいわゆる「PDCA」サイクルが発揮された結果と思える。今後もさらに工夫改善し、テーマ実現に向けて取り組みたい。
- ・新しい認定こども園教育・保育要領に基づいた、「ラーニングストーリー（園児理解）」の取組は、以上児では、月に一度のペースで保護者に提示し、保護者からの返事も積み重なってきている。「毎月のきずなが、楽しみ」「子どもの思い出になっている」の感想が出されている。一方で、「今まで行っていた、月ごとの子どもの成長（紙ベースの文章）が良かった」との評価もあり、今後の課題と言える。さらに、工夫改善をしたい。
- ・本年度は、園児の「自己肯定感の向上」が進み、園全体が明るく活気に満ちてきた。また、喧嘩や掴み合い等がほとんど解消された。園児の自己肯定感の向上がこれからの園運営に重要であると考え。また、年長には、発達障がいを含む「困り感をもつ子ども」が複数いたが、「自己肯定感の高まり」の中で困り感の軽減が見られた。「自己肯定感」の育成は園運営の根幹としたい。
- ・運動会や発表会（音楽会）等の行事は、新型コロナ感染防止の関係で、「密集を避けた、短時間・学年ごと」の

行事とした。その結果、短時間の集中度が高まり、「子どもが考えた種目や内容」となった。この内容の改善もあって、保護者からの評価は、「感動した」「短時間でも子どもの姿が分かりやすかった」と好評であった。今後も今回の方式を採用し、行事のあり方全体の見直しをしたい。

- ・活動や遊びに関わっては、園庭での自由遊びが広がりを見せている。具体的には、砂場、遊具以外に、タイヤ・ブロック・丸太等の遊びにつながる素材が子どもの遊び充実の鍵となっている。今後も、園庭に備える素材や道具類等の充実を図りたい。また、「わくわくの日」等での異年齢交流が機会となって、異年齢による遊びが自然に行われている。これは本園の特色の一つと言える。異年齢交流によって、「相手意識や思いやり」等の効果も大きい。今後も更なる充実を図りたい。
- ・食育に関わっては、園の畑「にじいろ畑」で、13種類の野菜等を栽培し、園児全員が関わっての取組となった。職員や地域の支援者からの日常的な管理が行き届き、品質も量も十分確保され、園児の観察→試食や収穫野菜で給食も行われて、「大切に育てて頂く」を実感し始めている、この取組と体験を今後も続け、日常生活と関連付けた食育をさらに推進したい。
- ・課題は、地域における保護者の実情や、子育てニーズに応じた園運営である。新型コロナウイルス感染防止の関係から、「ノントンの日」の実施が難しく、人数を制限しての運営をした。当面、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながらの実施となるので、ホームページ等のネットを活用した発信や交流を図りたい。

#### 5. 来年度の取り組みについて

- ・3年間の運営を通して「本園の良さや魅力」等が段々と広がりを見せている。少子高齢化の中子どもの減少は避けられない道であるが、今後も岡谷市や地域にとって魅力ある園づくりを行いたい。また、深澤主任を中心とした「学びあう組織」が実現している事が大きな喜びである。勤務時間についても、超過勤務がほとんどなく、勤務時間内での工夫改善が園全体の活力と子どもの育ちの原動力となっている。若くて初任の保育教諭も多く、課題もあるが、日常的な「自己の保育の見直しと改善」を図りながらより良い保育の実現と工夫改善を図りたい。
- ・今後、園テーマを「子ども一人ひとりの魅力があふれ、絆が深まるこども園」として、個（子）の魅力を更に高めていくことができる園運営を目指したい。そのためのラーニングストーリーのあり方、園内研修の深め方等の深化を進めたい。